

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	就労準備型芳泉（クラス3：ほうせん 津島2）		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 11 月 1 日		～ 令和 6 年 11 月 30 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和 6 年 11 月 1 日		～ 令和 6 年 11 月 30 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 6 年 11 月 25 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域の小学校に通う子ども達が利用しており、学年の異なる子ども達とのコミュニケーションも深めることができている	具体的な活動として、「絵本の読み聞かせ」や「ごっこ遊び」での言葉のやり取りで、気付きを得られるような言葉がけを行っています。また困った様子が見られたときは、日常生活場面で周りの大人や友達に助けを求められるような促しを行っています	定期的な発達支援に関する社内研修や、地域での研修や専門的な外部研修を受講し、様々なケースに対応できるよう技術を向上していきます
2	高学年になるタイミングで、中高生クラスへの移行を子どもと保護者と話し合いながら検討しています	同一敷地内に、中高生対象の事業所があるため、相談支援専門員や施設長と連携を取りながら、子どもにとってより良い環境を検討し、体験利用を経て利用につなげています	合同イベント（餅つき大会・キッチンカーのピザ販売体験・デイキャンプ等）を通じ、中高生の子ども達と更に交流を深めていきます
3	法人内の児童発達支援事業所に通所していた子ども達の中には、就園後に弊事業所を利用される子どももいます	相談支援専門員や児童発達支援事業所の支援者と連携を取りながら、見学、体験を経て入学後にご利用できるように連携を取っています	来年度は普段の活動で、児童発達支援の子ども達と弊事業所の子ども達や支援者との交流の場を設け、お互いを知る機会とし、子ども達が安心できる場をつくっていきます

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブと交流する機会が設けられておりません	個別で放課後児童クラブと併用している子どもがいることと、保護者自ら子どもを見学に連れて行き利用を判断されているため、必要性を感じられなかったことも要因としてあげられます	地域の子どもと交流することで、コミュニケーションの輪が広がることを期待できる子どももいるため、個々に応じて交流のきっかけづくりをしていきます
2	月1回臨床心理士の保護者相談会を実施し、希望者にはペアレントトレーニングを行っているものの、一部に過ぎない現状がある。保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行うことが求められると感じている	ペアレントトレーニングに関する知識や技術習得の機会が事業所として得られていないことが要因として考えられます	来年度はペアレントトレーニングの研修年間計画を立て、事業所として取り組んでいきます
3	茶話会を開催するため保護者に案内を配布しましたが、参加希望者が0人だったため、保護者同士の連携が支援できていません	併用先の保護者会に参加している方、横のつながりを求めるより支援者と個別で相談したい方、普段仕事をしているので休みの日は家のことや子ども達のことなどで忙しい方等、様々な要因が考えられます	年度が替わるタイミングで、新しい保護者の方もおみえになるので、再度アンケートを実施し希望をお聞きしていきます